

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2025. 6. 16 N08

感謝の気持ちを持てる人間に…



南が丘学校協働委員会の中に子どもサポート部会があり、その関連組織である南が丘コミュニティ・ネットの皆さんには2・3年生の校外学習における引率、5年生のデイキャンプでの支援、5・6年生の家庭科支援（運針・ミシン）など多くの学習において支援をしていただいています。また、安全指導部会の方には登下校時の見守りなどでもお世話になっています。6月9日（月）3・4限目の5年生家庭科の運針の学習では10名の方が学校に来ていただき、子どもたちに教えていただきました。その中には「この活動を20年

以上していますよ」と言われる方も見え、ただただ、頭の下がる思いでした。

先日、お会いしたある方に「あなたが悪いと相手に人差し指を向けたとき親指以外の3本の指はどこを向いているかわかりますか？」と聞かれました。当たり前ですが答えは人差し指を向けたその人となります。人を攻撃すれば知らないうちに実は自分自身を傷つけていることになるということです。これにつながる話として、自分に恩恵を与えてくれる人に感謝の気持ちを伝えたり、相手を褒める行為は自身の幸福度や自己肯定感を高めたりすることにつながると聞いたことがあります。上に書いた20年以上ボランティアをしてくださっている方は、50代の時に命に関わる病気をされ、それを克服して以来、“誰かのために何かしよう”と決意され、子どもたちのために活動してくださっているとのことで大変感動しました。人は自分に恩恵を与えてくれる行為に最初は感謝していても、いつしかそれが当たり前を感じるようになり、感謝することを忘れがちになってしまいます。PTAの方や地域の方が朝の忙しい時間帯に登校指導をしていただいていることや学習支援としてボランティアの方に来ていただいていることも“当たり前”と思わず、感謝できる子どもたちであってほしいと思います。（一般的に地域や保護者に見守られて育っている児童は自己肯定感が高いと言われています。）また、機会がありましたら、「そう。それって有難いよね。」などというプラスの言葉がけを子どもたちに聞かせていただければと有難いです。

いくつか嬉しかったこと…

毎朝、坂の上に立っていると子どもたちのいろいろな姿を見かけます。先日の強い雨の朝、ある兄妹が坂を上がってきました。お兄さんは傘を妹が濡れないようにさして自分の服は雨で結構濡れていました。よく見ると妹だけ雨具を着ていました。妹を思う気持ちがこの行動につながっているのだとなんだか嬉しく思いました。また、別の日。「南が丘駅の近くで子どもがこけてケガをしている」と連絡があり、職員室にいた職員が急いで現場に駆けつけ、児童を連れてきました。後で話を聞いたのですが、近くにいた児童が自分の持っている絆創膏を2枚傷口に貼ってくれたとのことでした。登校中、自分も急いでいる中、誰から言われるでもなく絆創膏を貼ってくれた児童。きっと優しく声をかけながら対応してくれたのでしょう。そういう児童が本校にしてくれたこと、とても嬉しく思います。誰かが見ているなくても優しい行動が自然とできる子がこれからもいっぱい増えてほしいと思います。最後に南が丘駅の近くで、外国人の人が「免許センターはどこですか？」と子どもに尋ねた時、その児童が丁寧に説明をしていて驚きましたと近くを通りかかった方から報告を受けました。こういった話を子どもたちにも紹介しながら、もっともっとその輪が広がっていくことを願っています。